

自然公園財団ニュース

つとも山線の時代には苦小牧以外駅舎などなく、数カ所の駅にのみプラットホームらしきものがあつた程度である。ミュージアムの中に入つてすぐ左にある一つ目の映像展示では、「支笏湖の歴史」「王子軽便鉄道の歴史」「温泉事業」および「チップ（ヒメマス）増殖事業」の四つのテーマに分けて紹介している。「支笏湖の歴史」では、約四万年前の支笏火山の噴火から始まる支笏湖の成り立ちやその後の風不死岳、恵庭岳、樽前山の誕生、大正時代の皇太子行啓の様子、湖畔での人々の生活の様子などを紹介している。「王子軽便鉄道の歴史」では、水力発電所建設のための鉄道敷設から、工事現場で働く人々の様子、湖畔橋（後の山線鉄橋）建設の様子などを紹介している。「温泉事業」では百年以上の歴史をもつ丸駒温泉の歴史をはじめ支笏湖畔に



山線鉄橋とデルタ線

版ジオラマを設置した。特に山線鉄橋は3Dプリンターを用いて忠実に再現している。また、実行委員会が二〇一九（令和元）年一月に千歳川から引き上げた本物のレールも展示しており、川底に埋まっていたことが幸いし腐食が進まず刻印もはっきり読み取れる。さらに苦小牧市内に保存されている四号機関車・炭水車・貴賓車をモデルに〇ナローゲージで再現した模型も展示した。二つ目の映像展示では、子どものころに山線に乗った経験をおもちの三名の方々にその体験談を語っていただいた座談会の模様などを収録し紹介している。苦小牧への買い物、通院に利用したこと、小学校への登校時に乗った列車が上り坂を登り切るのが時間を要し学校に遅刻したこと、下校時には駅に停車してはるはずの列車が既に発車してしまひ、止むなく徒歩で湖畔の家まで帰ったことなど思い出が尽きなかった。関係機関から収集した資料展示では、山線運行に携わった職員の写真、克明に記録された機関車の修繕台帳、発電所建設に従事したアイヌの女性たちの様子、機関車の輸入元米国ポーター社の



館内の様子(左:広域版ジオラマ 右:拡大版ジオラマ)

立地する、しこつ湖鶴雅リゾートスバ水の舘、休暇村支笏湖、レイクサイドヴィラ翠明閣、支笏湖第一寶亭留翠山亭、しこつ湖鶴雅別荘碧の座、支笏湖ユースホステルを紹介している。「チップ（ヒメマス）増殖事業」では、一八九四（明治二七）年に阿寒湖より移植されてから今日に至るまでの増殖事業の歴史等を紹介している。鉄道模型のコーナーでは広域版、拡大版二種類のジオラマを配置した。まず広域版では苦小牧と支笏湖間の路線をLEDランプで見やすく示し、山線がどのような経路で敷設されていたかが一目で分かるようにした。来館者にはこのジオラマを見ながら説明することにより、土地勘のない方にも理解を深めていただくことができるので大変有効である。もう一つは山線鉄橋と列車のスイッチバックに使われたデルタ線にスポットを当てた拡大

カタログ、昭和一二年当時のダイヤグラム、五号機関車・炭水車・客車・六頓無蓋貨車の当時の図面を縦一六六cm×横一六一cmに拡大したパネルのほか、能登正智氏（苦小牧市・故人）の山線軌道と題した版画、室谷孝枝氏（苦小牧市）から寄贈を受けた山線機関車と鉄橋をモチーフにした絵画など貴重な資料を展示することができた。今後は、スペースの関係で展示できなかった資料が多く残っているため、随時展示替えを行いたく、多くの皆様にご覧いただきたいと考えている。

国立公園 令和二年六月号

通巻七八四号

令和二年五月二五日 印刷

令和二年六月一日 発行

定価 六〇〇円（本体五四六円）

編集発行者 熊谷洋一

編集委員 阿部宗広、小野敏正

笹岡達男、滝澤玲子

深見幹朗、中島慶二

発行所 一般財団法人自然公園財団

〒一〇一〇〇五

東京都千代田区神田神保町二二一三

ヒューリック神保町ビル二階

お問い合わせ

TEL(〇三)五六九六一三六一

受付九時～一七時(土日祝休み)

印刷所 瞬報社写真印刷株式会社

本誌掲載記事の無断転載はお断りいたします。